

石炭の価格推移と需給動向（2025年4月）

石炭開発部企画課 大竹正巳

価格推移（4月）

- ・ 高品位一般炭 CIF 欧州：コロンビア Cerrejon 炭鉱等での減産発表を受けて中旬まで100～106\$/トン台で推移、下旬は関税措置を巡る市場の不確実性の高まり等から弱含み93\$/トン前後に低下。
- ・ 高品位一般炭 FOB 豪州：世界的な一般炭市況の改善を背景に上旬に96\$/トン台まで上昇後、アジア市場で長期化する輸入需要低迷や季節的な電力消費減少により続落し、月末に91\$/トン台に低下。
- ・ 強粘結炭 FOB 豪州：3月末の Moranbah North に続き Appin および Oaky Creek での操業停止の影響で月初の170\$/トン台から190\$/トン台に上昇。月末は供給懸念緩和から189\$/トン前後で推移。

需給動向（一般炭）

- ・ インドネシアの2月の石炭輸出量は前年同月比▲5.8%の4,145万トンに減少。主要需要国の中国とインドの国内炭増産による輸入需要縮小が影響。低品位炭の割合は前年より1.4ポイント増加。
- ・ 中国の3月の原炭生産量は前年同月比+9.6%の4億4,058万トン、安全監査で減産した前年から回復し単月として過去最高。1～3月累計は前年同期比+8.1%、第1四半期でははじめて12億トン超え。
- ・ 中国の3月の総発電量は前年同月比+1.8%の778TWhに増加。原子力が前年同月比+23.0%の他、水力、風力、太陽光が増加する中で、火力は▲2.3%の510TWhで4か月連続マイナス伸び率。
- ・ インドの4月の国内炭生産量は前年同月比+4.2%の8,196万トン、国内炭増産政策の下で4月単月の過去最高を記録。民間企業による生産量が前年同月比+30.4%の1,491万トンと著しい伸び。
- ・ インドの4月の総発電量は157TWhで前年同月比+1.7%の低い伸び。石炭火力発電は▲2.7%の113TWhと落ち込む一方で、水力は+20.0%と大幅増加、原子力も同+14.8%と堅調な伸び。
- ・ 日本の3月の一般炭輸入量は前年同月比▲1.6%の907万トンに減少し、3月単月では過去10年で最低水準。瀝青炭の平均輸入単価は前年同月より4千円程度値下がりし約2万円/トンに低下。

需給動向（原料炭）

- ・ 中国の3月の原料炭輸入量は前年同月比▲4.6%の859万トンに減少。一方、粗鋼生産量は前年同月比+4.6%の9,284万トンと、1～2月のマイナス伸び率からプラスに転じた。
- ・ 日本の3月の原料炭輸入量は前年同月比▲18.7%の297万トンに減少し、前月に引き続き過去10年間で最低水準。粗鋼生産量は前年同月比+0.2%の721万トン。
- ・ 世界の3月の粗鋼生産量は前年同月比+2.9%の1億6,610万トンに増加。中国およびインド（前年同月比+7.0%の1,380万トン）での増産が押し上げ要因となり、3か月ぶりに前年実績超え。

一般炭の価格推移

一般炭価格は、2022 年前半にはロシアへの制裁国（EU 諸国、日本等）がロシアからの石炭輸入を停止することによる他ソースへの代替需要の発生、および欧州における天然ガス代替としての石炭需要の増加により、極端な高値に急騰した。2022 年 9 月になると、制裁に参加しない主要石炭輸入国（中国、インド、トルコ等）が、国際市況から大幅にディスカウントされたロシア炭を積極的に輸入し、それらの国々が従来輸入していた南アフリカ、コロンビア、米国等の一般炭が欧州に供給される「再バランス化」が進展したことにより、これまでの極端なタイト感が薄れて一般炭価格は低下傾向となった。

➤高品位一般炭 CIF 欧州

欧州の一般炭需要は、2021 年～2022 年に天然ガス供給ひっ迫により増加したが（2022 年 3 月～8 月に 400\$/トン超）、2022 年 12 月以降は 200\$/トンを下回り、2023 年 5 月頃からは概ね 100～120\$/トンの範囲で推移した。2024 年に入りロシア石炭企業の制裁対象への追加、中東情勢の緊迫化、米国 Baltimore 港の橋崩落事故、ロシアとウクライナの軍事衝突等により短期的に上昇する局面が見られる中、8 月初旬にはガス輸送ルートに近いロシア西部へのウクライナ軍の越境攻撃により欧州における天然ガス供給ひっ迫懸念が高まったことで、8 月は 120\$/トンを超える展開となり、中旬には 2023 年 12 月以来の高値となる 127\$/トン近くまで上昇した。さらに 11 月に入ってから中央ヨーロッパ諸国向けロシア産天然ガスのパイプライン供給停止懸念が再燃し、欧州電力市場における天然ガス価格が急騰した影響を受けて 8 月以来の 125\$/トン超えとなったが、電力卸価格の軟化に伴い下落基調となった。12 月末はロシア産天然ガスのウクライナ経由パイプライン輸送の停止、2025 年に入り米国政府によるロシア石油業界に対する制裁強化で天然ガス需給タイト感が高まった影響で 110\$/トンを超える場面もある一方で、2 月は米国・ロシア両大統領のウクライナ和平交渉、欧州諸国による欧州委員会へのガス貯蔵目標の引き下げ要請の発表等を受けて欧州電力市場のエネルギー価格が下落し、約 1 年ぶりに 100\$/トンを下回り月末には 91\$/トン近くまで低下した。その後は、地政学的緊張の高まりとガス供給懸念が再燃し、3 月は上昇基調となった。

3 月末にコロンビア Cerrejon 炭鉱の一般炭生産量を 500～1,000 万トン削減するとのグレンコアによる発表を受けて、4 月はじめに 106\$/トン台まで値上がりしたが、トランプ政権による相互関税措置や中国による報復関税引き上げが報道される中、今後の石炭貿易の影響懸念や市場の先行き不透明感から取引が控えめになったことで、上旬には 100\$/トン前後に下落した。その後、ドラモンドが操業するコロンビア Pribbenow 炭鉱および El Descanso 炭鉱で減産調整に入る方針が明らかになったことで再び上昇基調となり、中旬には 105\$/トン前後まで値上がりした。しかし、米国主導の関税措置を巡る市場の不確実性の高まりに加えて、ショルダーシーズンでの需要低下と比較的余裕のある在庫状況などから取引が抑制されて下旬は弱含む展開となり、月末に 93\$/トン台まで低下した。

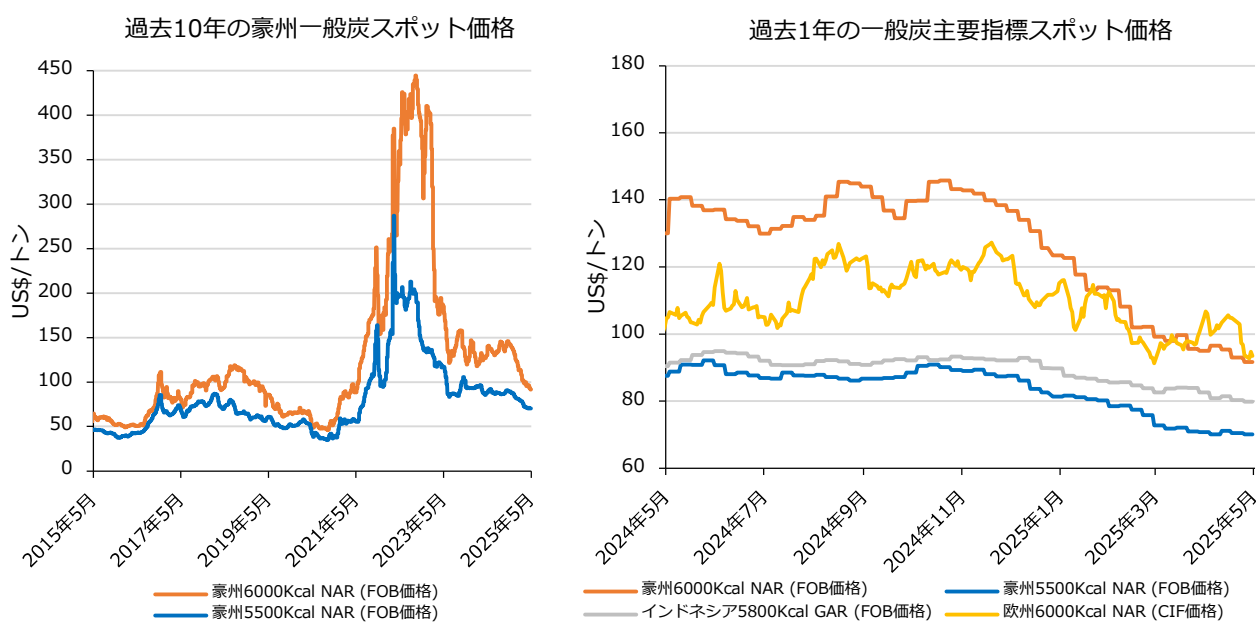
➤高品位一般炭 FOB 豪州

豪州産高品位炭価格は、CIF 欧州価格の高騰から 2 か月遅れの 2022 年 5 月～10 月にかけて一時 400\$/トンを超えたが、CIF 欧州価格の下落後も、他の銘柄と比べ大幅に高値の状態が続いていた。その後 2023 年 1 月頃より値下げ基調に入ってから、夏期の電力需要増や天然ガス価格の上昇による変動はあるものの、CIF 欧州よりも概ね 20～30\$/トン程度割高の 120～150\$/トン台で推移した。2024 年は、アジア市場の需要低迷により 5 月初旬の 140\$/トン台から緩やかに下落基調が続いていた中、夏期の冷房

向け電力消費量の高まりにより石炭火力の需要が増加したことで7月初旬の130\$/トンから値上げ局面に入り、地政学的リスクによる欧州やアジアでの天然ガス価格の上昇も影響し8月中旬には前年12月以来の145\$/トン超えとなった。その後、世界的なエネルギー市況の軟化を背景に9月下旬まで5週連続の下落基調で134\$/トン台まで低下したが、10月に入ってから暖房需要に備えた電力会社の在庫補充の動きから再び145\$/トン台に上昇した。10月下旬以降は、天然ガス市況の軟化を背景に需給が緩和されたことで小幅な下落傾向が続き、11月は136~142\$/トン台、12月は123~136\$/トン台、1月は113~122\$/トン台と徐々に低下し、2月末には2021年5月以来となる100\$/トン割れとなった。3月に入りインドネシアでは輸出取引に石炭指標価格（HBA）の適用が義務化されたことで市場関係者間に混乱が生じて市場取引が停滞した影響で豪州炭への関心が高まり、中旬には100\$/トン近くまで値上がりしたが、再び下落基調となった。

3月下旬に2021年5月以来の95\$/トン台に低下した豪州高品位炭価格は、4月に入ってから欧州市場をはじめ世界的な一般炭市況の改善を背景にして上旬に96\$/トン台に上昇した。その後、日本、韓国、台湾などのアジア市場で長期化する輸入需要低迷に加えてショルダーシーズンでの暖房用電力消費量の減少を背景にスポット取引が抑制されたことで中旬以降は続落し、月末には2021年5月と同水準の91\$/トン台に低下した。

日本では全国的に温暖な気候が予報され、季節的な電力需要の減少と相まって石炭火力はさらに減少する見込み、韓国では原子力発電が堅調に稼働している中で政府が石炭火力に対して6月1日まで低ロード運転を指示していること等から、引き続きアジア市場での輸入需要が抑制されることで市況低迷の継続が懸念される。



出所：Argus Media Limited (<https://www.argusmedia.com/en>) のデータを基に作成

➤低品位一般炭 FOB 豪州

中国の旺盛な需要が下支えしているアジア向け一般炭は、2024年3月下旬より気温上昇や景気減速等により、中国国内の需給が一時緩和したことでスポット価格が低下したが、5月に入り夏季の需要期に

向けた在庫積み増しの動きが始まったことで強含みに転じた。その後、低品位（5,500kcal/kg）炭 FOB 豪州スポット価格は需要低迷を背景に 5 月下旬の 92\$/トン台から緩やかな下落基調が続いていたが、7 月上旬に高品位（6,000kcal/kg）炭と同様に緩やかな上昇に転じ、その後は 86～88\$/トンのレンジでの小幅な値動きとなった。10 月上旬から中旬にかけては 90\$/トンをやや上回る高値をつけていたが、高品位一般炭の動きと調和して小幅な下落基調に転じ、11 月は概ね 88～89\$/トン台、12 月は 82～86\$/トン台、1 月は 80～81\$/トン台、2 月は 72～78\$/トン台と弱含みで推移した。

3 月下旬～4 月上旬に 70\$/トン台に低下した豪州低品位炭は、中旬に 71\$/トン台に上昇したが、主要市場である中国やインドでの輸入需要が依然として弱いため、下旬に再び下落し 70\$/トン台で推移した。中国、インド、東南アジアでの低品位炭の国内需要は旺盛であるが、国内炭生産量の増加を背景に需給緩和が顕著となっている。

一般炭の需給動向

豪州

- ・ 一般炭最大の輸出港である NSW 州 Newcastle 港の 3 月の石炭出荷量は、前年同月比+1.7%の 1,237 万トンとなった。中国やインドの輸入需要低迷が長期化する中、日本や韓国の 3 月の一般炭輸入量は前年同月より増加した。

インドネシア

- ・ インドネシア中央統計庁によると、2 月の石炭輸出量は 4,145 万トンで前年同月より 5.8%減少した。主要消費国である中国およびインドがそれぞれ前年同月比▲9.8%および▲16.2%と国内炭増産によって輸入需要が縮小した影響が大きく、その他に韓国▲8.8%、マレーシア▲4.3%、タイ▲25.1%等の減少が目立った。その一方で、ベトナム向けが+65.3%、バングラデシュ向けが+59.9%と顕著に増加した。
- ・ 主な輸出先は、中国 1,571 万トン（構成比 37.9%）、インド 901 万トン（同 21.7%）、フィリピン 294 万トン（同 7.1%）、ベトナム 269 万トン（同 6.5%）、マレーシア 239 万トン（同 5.8%）、韓国 237 万トン（同 5.7%）、日本 216 万トン（同 5.2%）の順。輸出量全体に占める低品位炭（亜瀝青炭および褐炭）の割合が徐々に増えている中で、2 月は前年同月より 1.4 ポイント増加して 86.9%となった。

中国

- ・ 中国国家统计局の発表によると、3 月の原炭生産量は前年同月比+9.6%の 4 億 4,058 万トンと、エネルギー安全保障政策に基づく国内炭生産強化により、安全監査による減産で落ち込んだ前年から回復し単月としては過去最高を記録した。1～3 月累計では前年同期比+8.1%の 12 億 260 万トンとなり、第 1 四半期としてははじめて 12 億トンを超えた。
- ・ 海関総署が発表した 3 月の一般炭輸入量（褐炭含む）は、前年同月比▲9.4%、前月比+16.6%の 2,824 万トンとなった。季節要因により前月からは増加したが、国内原炭生産量の増加、ショルダーシーズンでの暖房用電力消費の縮小、高水準の港湾在庫により前年実績より減少した。2023 年から

続いていた前年比プラスの伸び率が今年2月にマイナス（▲3.2%）に転じ、3月はそのマイナス幅が拡大したことで、国内石炭需要に対する輸入依存度の低下が示唆される。

- ・ 主な輸入先は、インドネシア 1,780 万トン（構成比 63%）、豪州 424 万トン（同 15%）、ロシア 267 万トン（同 9%）、モンゴル 237 万トン（同 8%）の順。3月1日からインドネシアの輸出取引に石炭指標価格（HBA）が導入された影響で中国のバイヤーがスポット取引を見合わせる動きがあったものの、インドネシアをはじめ主要輸入先の3月のシェアは前月と有意な変化は見られない。
- ・ 中国国家统计局が発表した3月の総発電量は前年同月比+1.8%の 778TWh となった。電源別に見ると、水力が前年同月比+9.5%、原子力+23.0%、風力+8.2%、太陽光+8.9%と軒並み増加する中で、火力は▲2.3%の 510TWh に落ち込み4か月連続でマイナス伸び率となった。

インド

- ・ 石炭省が発表した4月の国内炭生産量は、前年同月比+4.2%の 8,196 万トンで、国内炭の生産体制強化を背景に4月単月の過去最高を記録した。内訳を見ると、自社向けを中心とした民間企業による生産量が前年同月比+30.4%の 1,491 万トンと大きく伸びたのに対し、CIL が同+0.5%の 6,206 万トンとほぼ横ばい、SCCL が同▲8.9%の 499 万トンと減少した。CIL の生産量は国内炭生産量の 70%以上を維持し続けているものの、2024年7月以降はマイナスもしくは1~2%台の低い伸びが続いている。
- ・ 4月末時点の発電所向け石炭在庫は、前年同月比+18%の 5,669 万トンに増えたが、前月末からは約 142 万トン減少したことで、在庫維持日数（在庫量÷一日当りの消費量）は前月より1日分短い 19 日となった。総在庫量に占める輸入炭の割合は、過去3年間で最も低い約 4%となった。例年インドの石炭在庫は、暑季が始まる3月頃をピークとして、モンスーン明けの10月頃まで減少する傾向にある。
- ・ インド中央電力庁の発表による4月の総発電量は 157TWh で、前年同月比+1.7%の低い伸びとなり、前月比では 2.0%の減少となった。石炭火力発電についても前年同月比▲2.7%、前月比▲3.8%の 113 TWh と落ち込んだ。その一方で、水力はインド中央部から北東部での豪雨の影響もあり前年同月比+20.0%と大幅に増加した他、原子力も同+14.8%と堅調な伸びを見せた。

日本

- ・ 財務省貿易統計が発表した石炭貿易統計値に基づく3月の一般炭輸入量（利用実態に合わせて補正）は、前年同月比▲1.6%、前月比▲10.2%の 907 万トンに減少し、3月単月としては過去10年間で最低水準となった。
- ・ 一般炭（瀝青炭）の1トン当たりの平均輸入単価は、ピーク時の2022年11月の約6万円から徐々に値下がりする中、前年同月より4千円程度値下がりし約2万円まで低下した。

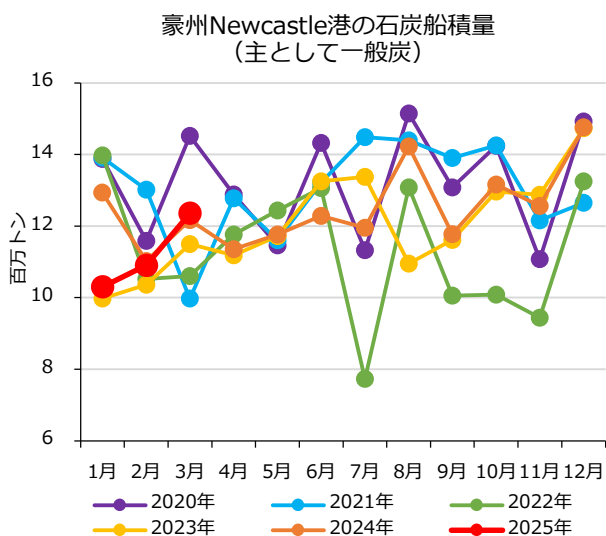
韓国

- ・ 韓国の貿易統計によると、3月の一般炭輸入量は前年同月比▲33.2%、前月比▲21.4%の 418 万トンに大幅減少した。温暖な気候により暖房用電力消費量が減少したことに加えて、好調な原子力発電所の稼働が石炭燃焼を抑制したことが主な減少要因と考えられる。主な調達先は、インドネシア 220 万トン（前年同月比+8.8%）、ロシア 76 万トン（同▲38.4%）、豪州 62 万トン（同+5.9%）、南ア 16 万トン（同▲76.4%）およびコロンビア 2 万トン（同▲93.7%）の順。世界的に一般炭市況が軟化して

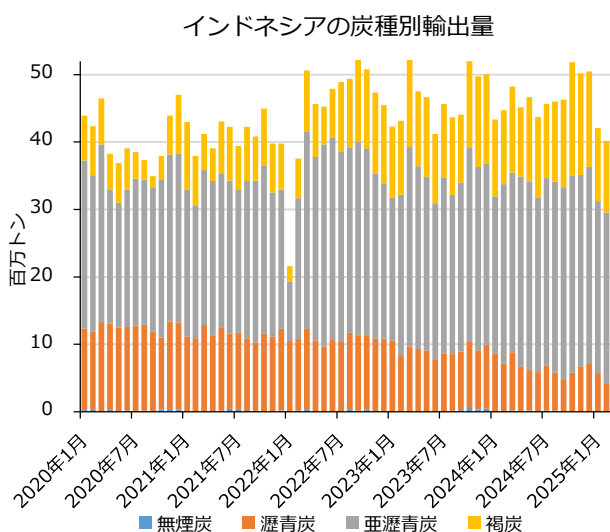
いる中、コスト競争力の優位性が薄れているロシア炭および南ア炭は前月に引き続き減少傾向が著しく、グレンコアが Cerrejon 炭鉱の減産を発表したことで供給タイト感が強まったコロンビア炭は激減した。

EU

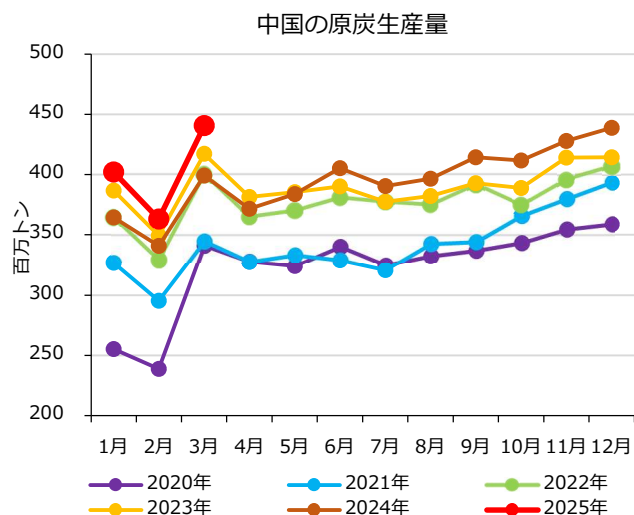
- ・ 欧州連合統計局（EUROSTAT）によると、2月のEU域外からの一般炭輸入量は前年同月比+1.0%、前月比▲22.8%の291万トンとなった。主な輸入元は、豪州93万トン（構成比32.2%）、コロンビア52万トン（同17.9%）、カザフスタン47万トン（同16.1%）、南ア39万トン（同13.3%）、米国36万トン（同12.5%）の順。価格低迷によりコスト競争力が高まる豪州炭が前月比+27.4と増加して最大シェアを占めた一方で、コロンビアからの輸入量が前月比▲61.0%と激減した。



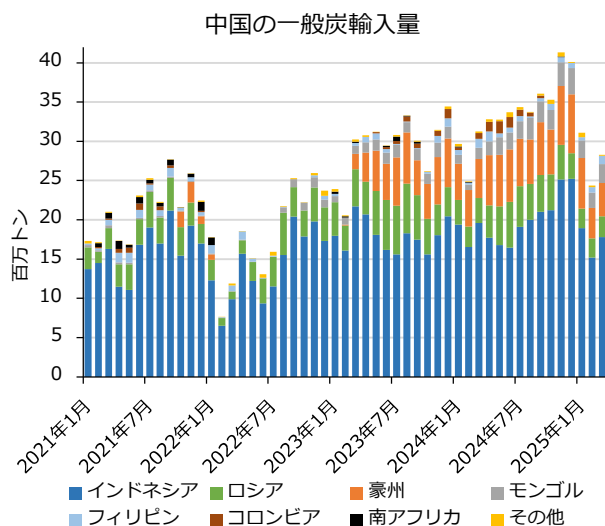
出所：Newcastle 港の月次貿易報告



出所：インドネシア中央統計庁

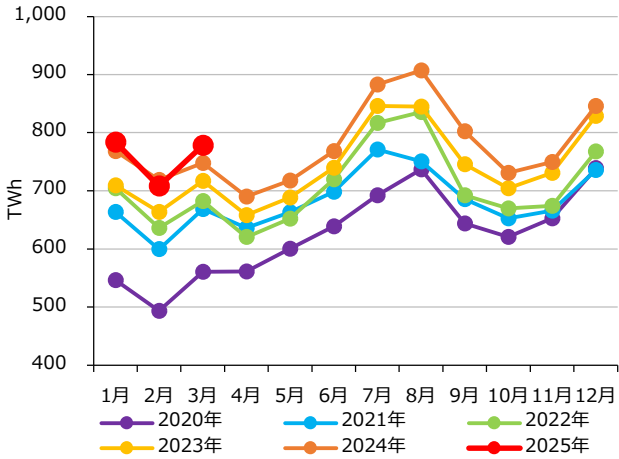


出所：中国国家統計局



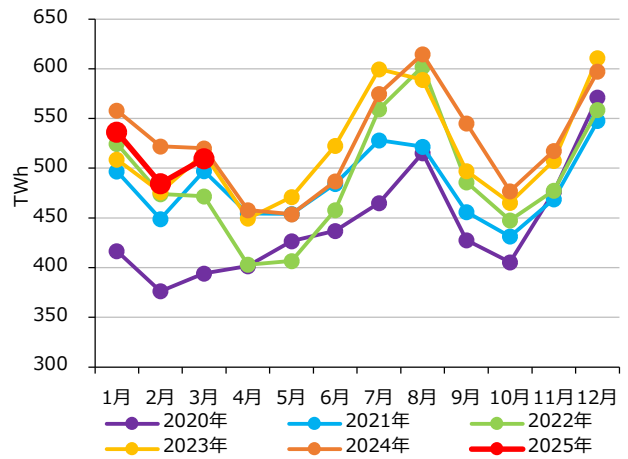
出所：中国海関総署

中国の総発電量



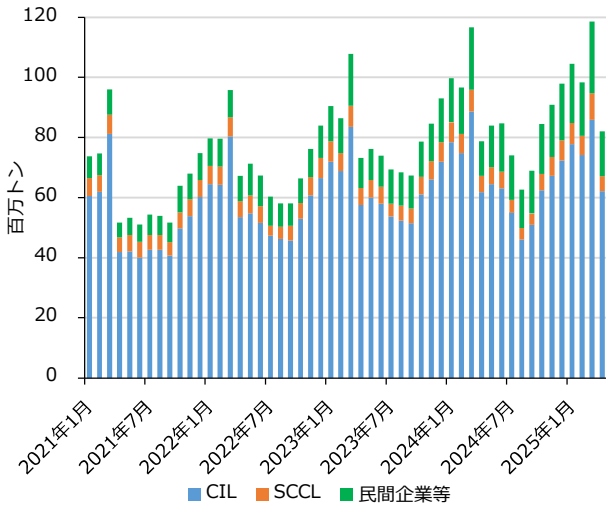
出所：中国国家統計局

中国の火力発電量



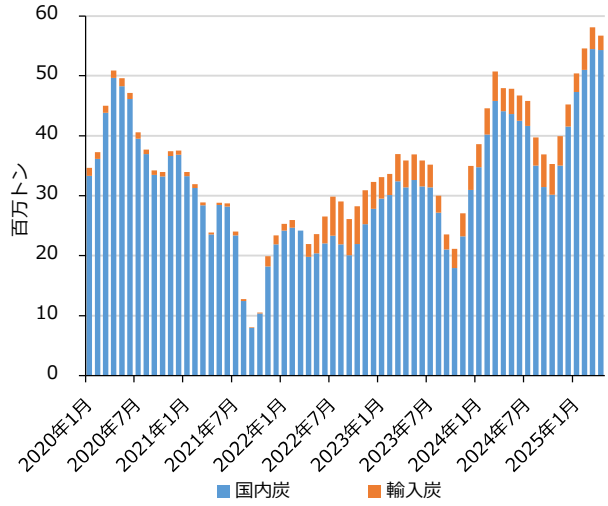
出所：中国国家統計局

インドの国産炭生産量



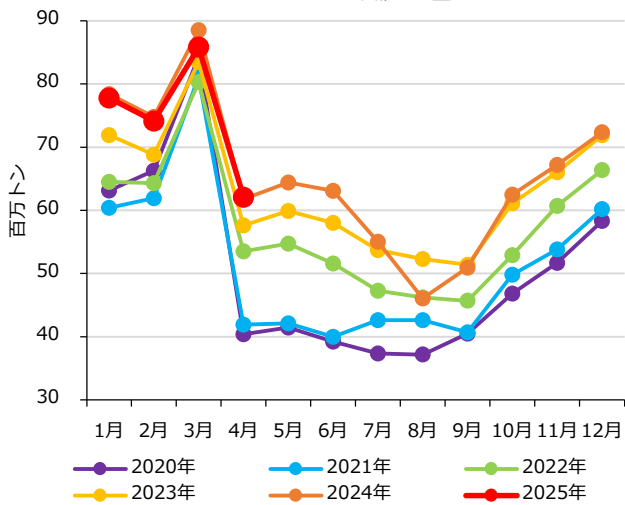
出所：インド石炭省

インド発電所の石炭在庫



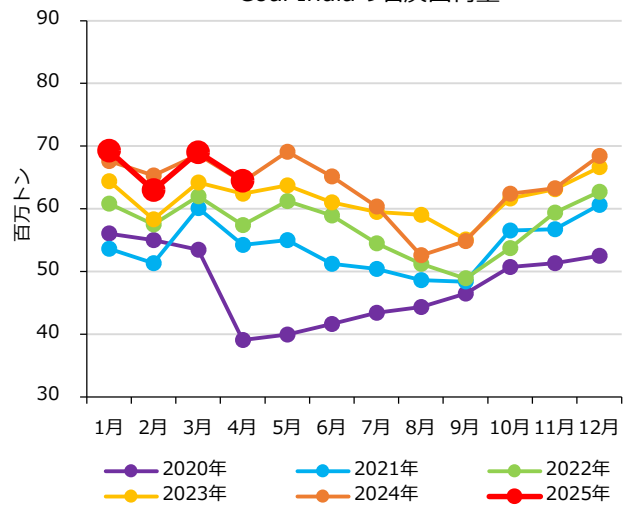
出所：インド中央電力庁

Coal Indiaの石炭生産量



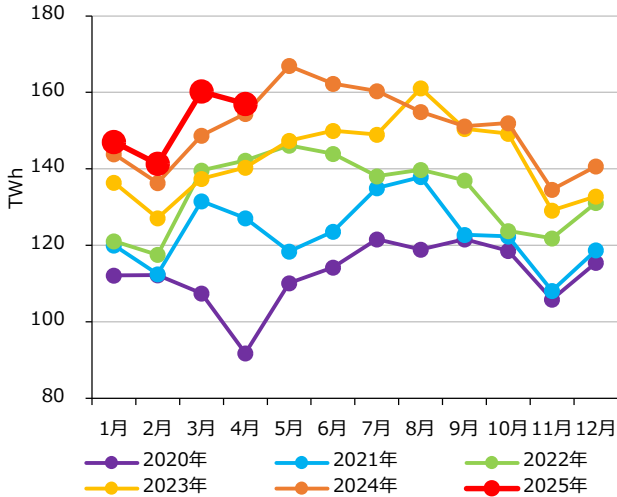
出所：Coal India Limited

Coal Indiaの石炭出荷量



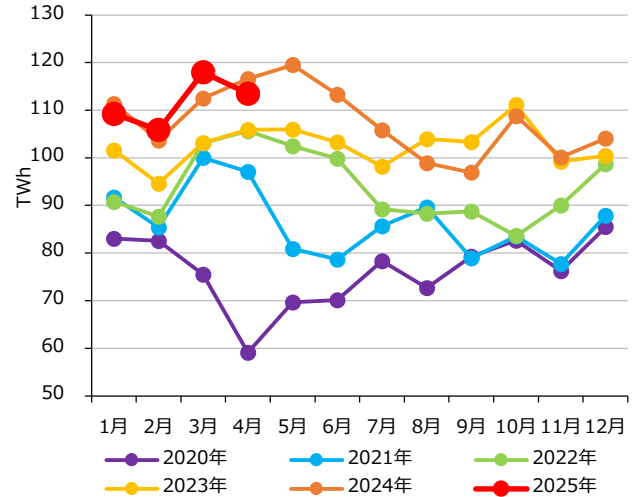
出所：Coal India Limited

インドの総発電量



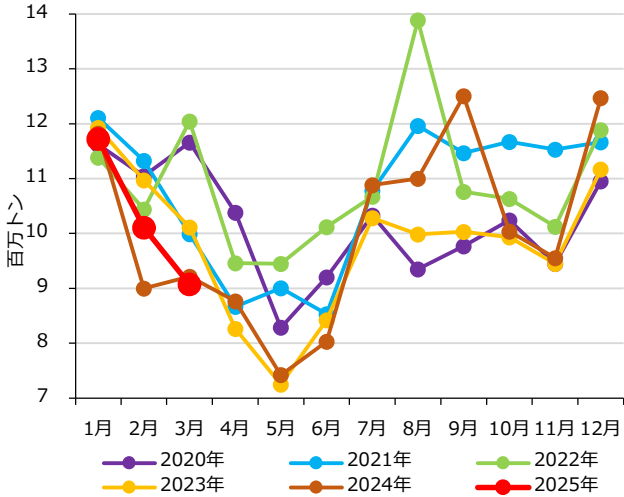
出所：インド中央電力庁

インドの石炭火力発電量



出所：インド中央電力庁

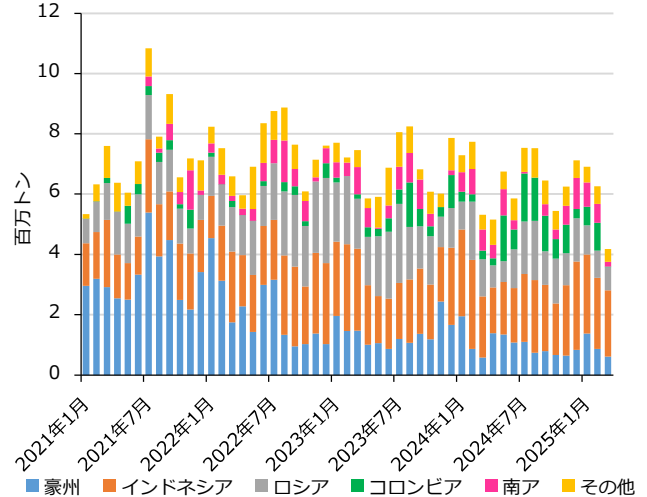
日本の一般炭輸入量



出所：財務省貿易統計

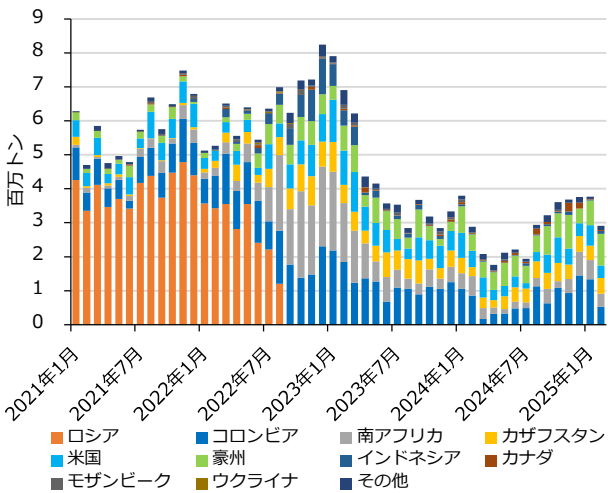
統計品目番号(HSコード)2701.12.019のうち、インドネシア、米国、コロンビア、カザフスタンからの輸入量を、利用実態に合わせて一般炭に分類。

韓国の国別一般炭輸入量



出所：韓国貿易統計

EUの一般炭輸入量



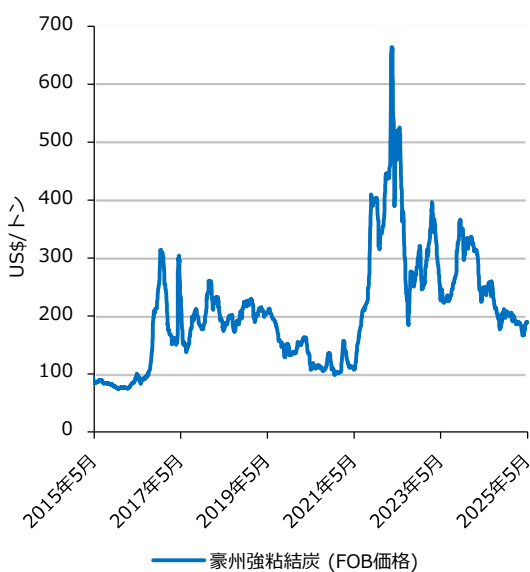
出所：欧州連合統計局

原料炭の価格推移

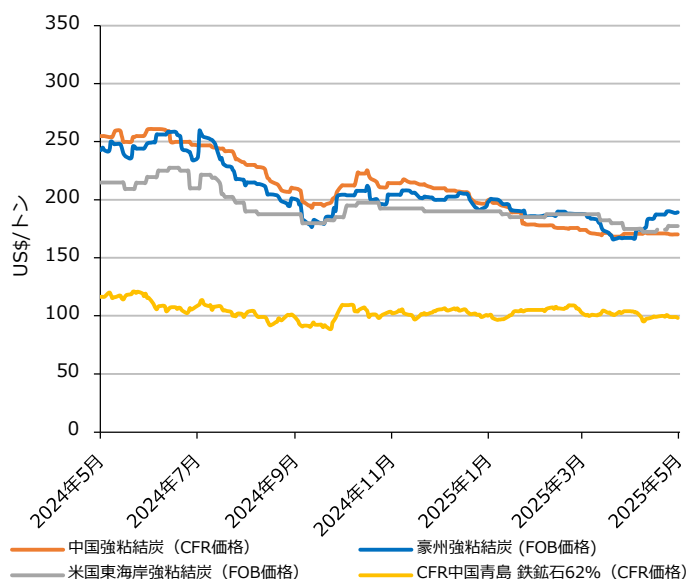
強粘結炭 FOB 豪州価格は、2021 年に入りコロナ禍から経済活動が再開され鉄鋼需要が増加する中、豪州での雨期の悪天候やコロナウイルスの影響による労働力不足に起因する生産・輸送の停滞により高騰し、加えてロシアによるウクライナ侵攻により、ロシア炭の他ソース代替への動きは一般炭程強くないものの、心理的影響もあって一時的に 600\$/トンを超えた。その後、産炭国の天候回復および鉄鋼需要の低迷により急落し、2022 年 8 月には約 200\$/トンまで値下がりした。2022 年 12 月以降は、中国のゼロコロナ政策の撤廃による鉄鋼需要増加の期待、豪州 QLD 州北部の天候悪化、QLD 州の石炭輸送鉄道の事故等の影響により値上がりし、2023 年 2 月下旬には 400\$/トン近くまで上昇したが、豪州における天候回復や鋼材需要低迷の長期化から値下がりに転じた。その後、インドの好景気に牽引されて原料炭需給はタイト化し、2023 年 10 月には 360\$/トンを超える局面も見られたが、世界的な鉄鋼需要の低迷を背景に下落基調となり、2024 年 8~9 月には 200\$/トンを割り込んだ。9 月下旬の中国による景気刺激策発表により一時的に上昇する局面もあったが実需は低調で市況の浮揚力に欠いたことから、その後は横ばい~弱含み、12 月下旬に 190\$/トン近くまで下落した。2025 年初は需要回復期待から約 200\$/トンに上昇するも、長期化する需要低迷を背景に 1 月下旬に 190\$/トンを下回り、3 月上旬までは 185~190\$/トンの横ばいで推移し、その後再び下落に転じて3月中旬に 180\$/トン割れとなった。

3 月下旬に 167\$/トン前後の横ばいで推移していた豪州強粘結炭価格は、3 月 31 日に高濃度一酸化炭素の検出で操業停止した QLD 州 Moranbah North 原料炭炭鉱が不可抗力を宣言したとの報道を受けて 4 月初旬に 174\$/トン前後に値上がりした。米国による相互関税措置と中国による報復関税の発表などによる先行き不透明感から市場は今後の方向性を見極めるためスポット取引に乏しい中、4 月 6 日に NSW 州 Appin 原料炭炭鉱が事故により閉鎖したことで、中旬に 180\$/トンを超えた。さらに、4 月 23 日には QLD 州 Oaky Creek 原料炭炭鉱で地表水貯蔵施設からの漏水が原因で生産停止したことで小幅に上昇し、約 3 か月ぶりに 190\$/トンを上回った。その後、Appin 炭鉱の操業再開の報道により供給懸念がやや緩和され、月末は 189\$/トン前後で推移した。

過去10年の豪州強粘結炭スポット価格



過去1年の強粘結炭指標スポット価格



出所：Argus Media Limited (<https://www.argusmedia.com/en>) のデータを基に作成

原料炭の需給動向

豪州

- ・ QLD 州主要 4 港（Abbot Point、Hay Point、Dalrymple Bay、Gladstone）の 3 月の石炭船積量は前年同月比+4.9%の 1,697 万トンとなり、鉄鋼需要の低迷および悪天候の影響で過去 10 年で 2 番目の低水準に落ち込んだ前月から大幅に回復（+62.8%）した。
- ・ QLD 州主要 4 港のうち Gladstone 港の 4 月の石炭船積量は、アジア市場で長期化する鉄鋼需要および一般炭輸入需要の低迷を背景に、前年同月比▲1.8%、前月比▲19.4%の 440 万トンに減少した。最大輸出先である日本向けが前年同月比+9.4%の 135 万トンに拡大したが、インド向けおよび中国向けがそれぞれ前年同月比▲15.8%および▲34.9%と縮小した影響が大きい。ベトナム向けが前年同月比+220.0%の 58 万トンと顕著に増加した。
- ・ GM3 社が操業する NSW 州 Appin 原料炭炭鉱（年間生産量 300～350 万トン）で複数の作業員が負傷する事故が発生し、4 月 6 日に閉鎖した。当初ガス爆発の疑いがあるとも報じられたが、その後の調査でガス突出の証拠はなく、天盤の地圧現象に起因する崩落の発生が示唆された。同炭鉱は 4 月下旬に操業を再開した模様。
- ・ 4 月 24 日、QLD 州 Oaky Creek 原料炭炭鉱（年間生産量約 1,100 万トン）で地表水貯蔵施設から非生産エリアに水が流入した影響で生産を停止したと Glencore が発表し、後日、不可抗力を宣言する可能性を示唆した。同炭鉱では 2024 年 10 月に、メンテナンス作業を行っていた作業員が死亡したことで生産を一時停止している。

中国

- ・ 海関総署の発表による 3 月の原料炭輸入量は、前年同月比▲4.6%の 859 万トンに減少した。例年では季節要因により前月より増加する傾向にあるが、鉄鋼需要の低迷および 3 月の全人代で減産方針が発表されたことで、前月比でも 2.9%の減少となった。主な輸入相手国は、モンゴル 442 万トン（前年同月比▲13%）、ロシア 278 万トン（同+9%）、カナダ 83 万トン（同+90%）の順で、上位 3 か国で全体輸入量の 94%を占める。中国は 2 月に米国からの輸入炭に対して 15%の追加関税措置を講じたことで、米国炭の輸入量は前月の 136 万トンから 21 万トンに激減（前月比▲84%）した。

日本

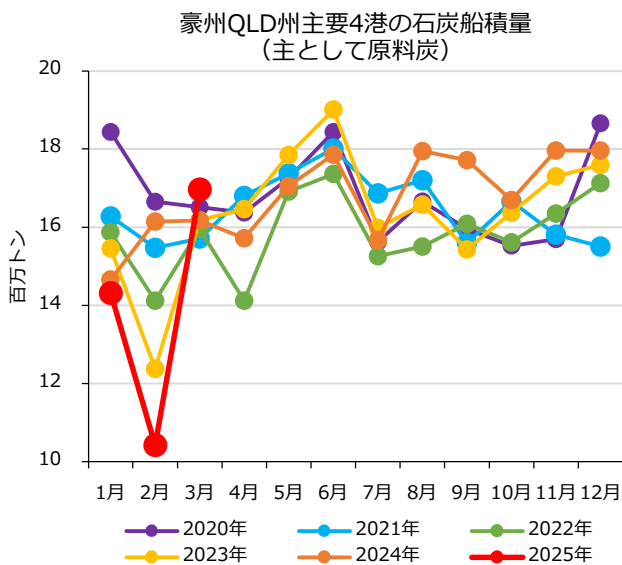
- ・ 財務省貿易統計が発表した石炭貿易統計値に基づく 3 月の原料炭輸入量（利用実態に合わせて補正）は前年同月比▲18.7%の 297 万トンに減少し、前月に引き続き過去 10 年間で最低水準となった。3 月の強粘結炭 1 トン当たりの平均輸入価格は約 3 万 1 千円となり、2024 年 3 月の約 4 万 8 千円から 11 か月連続で下落傾向にある。
- ・ 日本鉄鋼連盟の発表によると、2024 年度の粗鋼生産量は前年比▲4.5%の 8,295 万トンで、3 年連続の減少となった。
- ・ 3 月の粗鋼生産量は前年同月比+0.2%、前月比+12.6%の 721 万トン（内、転炉鋼は 530 万トン）で、13 か月ぶりに前年同月より増加した。前年 3 月の生産量が低調だったことで数値上ではプラス伸び率となったが、鉄鋼需要は引き続き低迷している。一日当たりの生産量は 23.2 万トンで、前月より 1.7%の増加となった。

E U

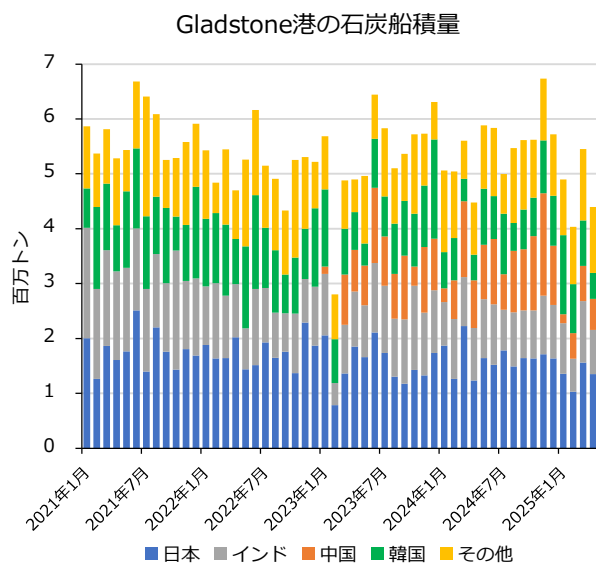
- ・ 欧州連合統計局（EUROSTAT）の発表による 2 月の欧州域外からの原料炭輸入量は、前年同月比▲18.2%、前月比▲6.0%の 183 万トンに減少し、3 か月連続で 200 万トンを下回る低水準となった。豪州（105 万トン）および米国（70 万トン）の 2 か国で全体輸入量の 96%を占める中、約 5 千トンと少量ではあるがウクライナからの輸入が 3 か月ぶりに見られた。

粗鋼生産

- ・ 世界鉄鋼協会のまとめによると、3 月の世界の粗鋼生産量は前年同月比+2.9%の 1 億 6,610 万トンに増加した。中国およびインドでの増産が押し上げ要因となり、3 か月ぶりに前年実績を上回った。一日当たりの生産量は 536 万トンで、前月から 3.7%の増加となった。
- ・ 中国国家統計局が発表した 3 月の中国の粗鋼生産量は前年同月比+4.6%の 9,284 万トンで、3 か月ぶりに前年実績超えとなった。一日当たりの生産量は前月比+6.2%の 299 万トン。
- ・ 中国に次いで世界第 2 位の粗鋼生産国であるインドの 3 月の粗鋼生産量は、前年同月比+7.0%の 1,380 万トンとなり、前月に引き続き単月では過去最高を記録して高い水準を維持した。一日当たりの生産量についても 45 万トンで過去最高水準となった。
- ・ 主要鉄鋼生産国のなかで中国およびインド以外に前年実績を上回ったのは、前述の日本の他にイラン 330 万トン（前年同月比+3.7%）およびブラジル 290 万トン(同+6.6%)などであった。

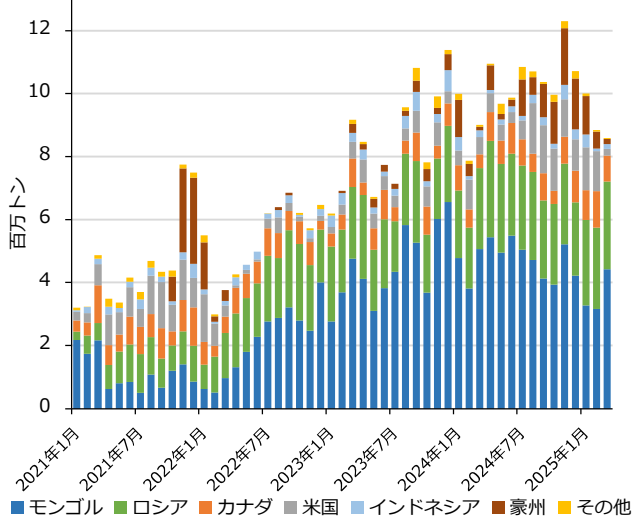


出所：QLD 州各港湾の月次貿易報告



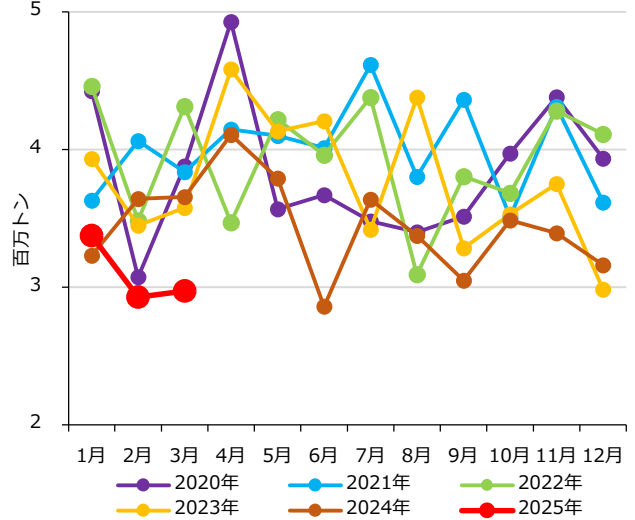
出所：Gladstone 港の月次貿易報告

中国の原料炭輸入量



出所：中国海関総署

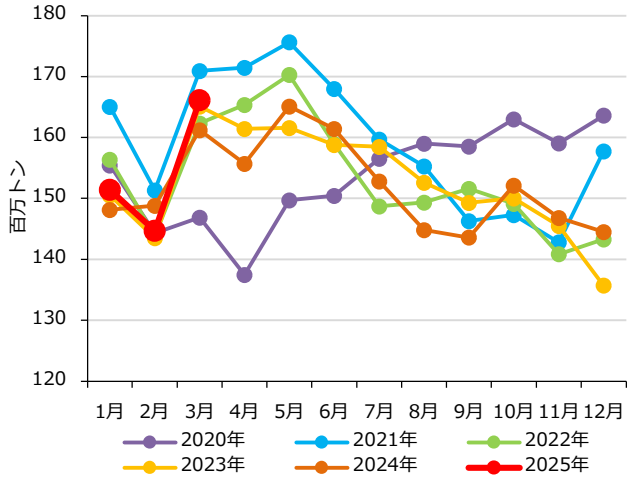
日本の原料炭輸入量



出所：財務省貿易統計

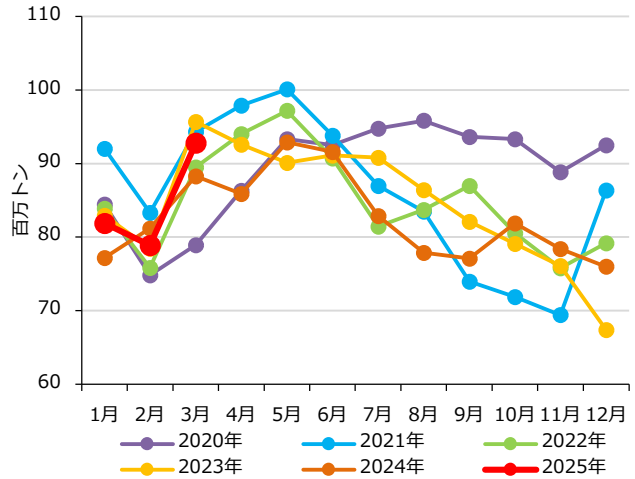
統計品目番号(HSコード)2701.12.019のうち、インドネシア、米国、コロンビア、カザフスタンからの輸入量を、利用実態に合わせて一般炭に分類。

世界の粗鋼生産量



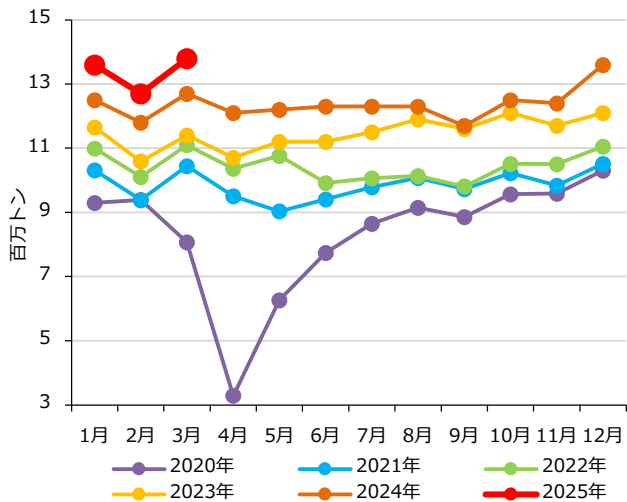
出所：世界鉄鋼協会

中国の粗鋼生産量



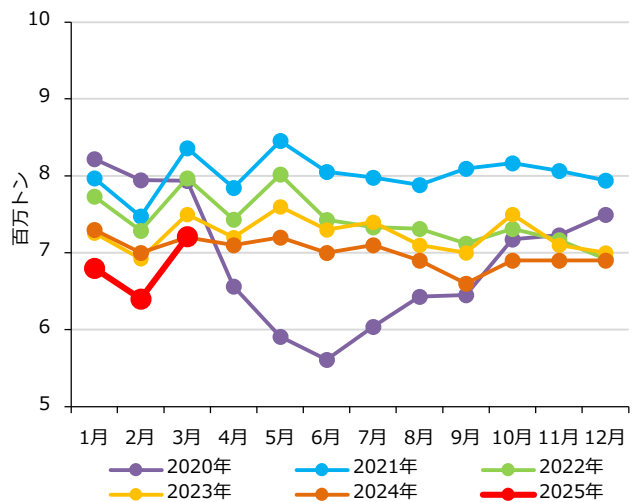
出所：世界鉄鋼協会

インドの粗鋼生産量



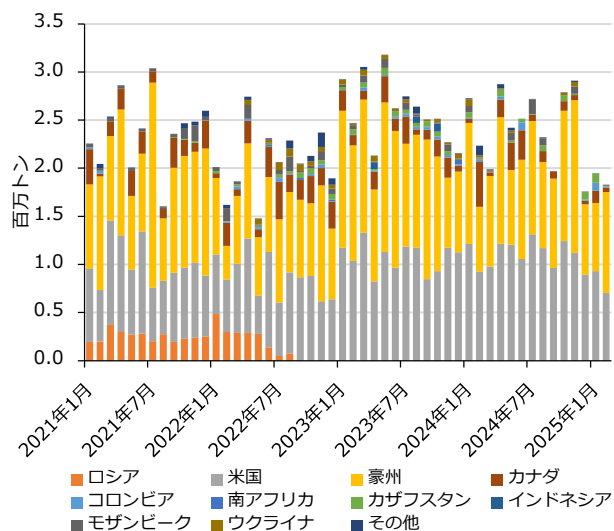
出所：世界鉄鋼協会

日本の粗鋼生産量



出所：日本鉄鋼連盟

EUの原料炭輸入量



出所：欧州連合統計局

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料を引用等する場合には、あらかじめ独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構から許可を受けてください。